

Docket No.: 4686-001

PATENT

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of :
Hiroyuki NAGANO :
U.S. Patent Application No. *Not yet assigned* : Group Art Unit: *Not yet assigned*
Filed: *Herewith* : Examiner: *Not yet assigned*
For: GAMING MACHINE

CLAIM OF PRIORITY AND
TRANSMITTAL OF CERTIFIED PRIORITY DOCUMENT

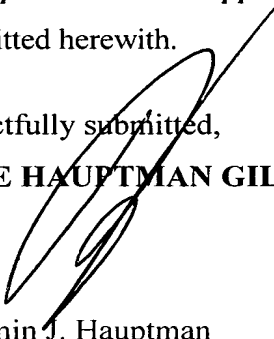
Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Dear Sir:

In accordance with the provisions of 35 U.S.C. 119, Applicant hereby claims, in the present application, the priority of *Japanese Patent Application No. 2002-316729, filed October 30, 2002*. The certified copy is submitted herewith.

Respectfully submitted,

LOWE HAUPTMAN GILMAN & BERNER, LLP


Benjamin J. Hauptman
Registration No. 29,310

1700 Diagonal Road, Suite 310
Alexandria, Virginia 22314
(703) 684-1111 BJH/etp
Facsimile: (703) 518-5499
Date: October 30, 2003

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年10月30日
Date of Application:

出願番号 特願2002-316729
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP 2002-316729]

出願人 アルゼ株式会社
Applicant(s):

2003年10月15日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 P02-0884

【提出日】 平成14年10月30日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A63F 5/04

【発明者】

【住所又は居所】 東京都江東区有明 3 - 1 - 2 5 有明フロンティアビル
A棟

【氏名】 長野 博之

【特許出願人】

【識別番号】 598098526

【氏名又は名称】 アルゼ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100106002

【弁理士】

【氏名又は名称】 正林 真之

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 058975

【納付金額】 21, 000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【物件名】 図面 1

【包括委任状番号】 0018505

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 遊技機

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 筐体と、

前記筐体の前面開口部に設けられた扉体と、

前記扉体に設けられた紙幣挿入口と、

前記紙幣挿入口の下辺部より筐体前面方向に向けて突出した、紙幣を前記紙幣挿入口に案内するための紙幣案内板と、を備える遊技機であって、

前記紙幣案内板は、所定の大きさの異物を分離落下させる複数の異物落下口が形成されていることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】 前記紙幣案内板は、複数の略直線状の開口溝が列状に形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の遊技機。

【請求項 3】 前記紙幣案内板には、該開口溝を複数の領域に仕切るための仕切部材が形成されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の遊技機。

【請求項 4】 前記仕切部材により仕切られた前記開口溝の各開口部の長さは、それぞれ該遊技機で使用されるコインの直径よりも小であることを特徴とする請求項 3 記載の遊技機。

【請求項 5】 前記紙幣挿入口に着脱自在に取着されるとともに、前記開口溝を介して入った外部からの異物を導くために、前記紙幣挿入口に対向する第 1 の開口部と、下方に向けて開放された第 2 の開口部とを有する取着体を備え、

前記紙幣案内板は、前記第 1 の開口部を覆うように形成されていることを特徴とする請求項 1 から 4 いずれか記載の遊技機。

【請求項 6】 前記紙幣案内板は、前記取着体に、別体として取り付けられていることを特徴とする請求項 5 記載の遊技機。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、遊技機に関するものである。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

カジノなどに設置されている、ビデオポーカーやスロットマシン等の遊技機には、コインやメダルなどの代わりに直接紙幣を挿入するための、紙幣挿入口を備えたものもある（例えば、特許文献 1）。

【0 0 0 3】

このような遊技機であれば、遊技者が手持ちのコイン等を切らした場合に紙幣からコイン等に両替するために、席を立てわざわざ両替機に向かうことや、遊技場の係員を呼ぶことなしに、遊技を継続することが可能なのである。

【0 0 0 4】

そして、そのような紙幣挿入口の下辺部には、当該紙幣挿入口へ紙幣を案内するための紙幣案内板が設けられているものが多い。このように紙幣案内板を設けることにより、遊技者が、当該紙幣挿入口に紙幣を挿入しやすくなるのである。

【0 0 0 5】**【特許文献 1】**

特開平 9 - 1 0 6 4 7 1 号公報

【0 0 0 6】**【発明が解決しようとする課題】**

しかしながら、遊技場においては簡単な食事や飲物を取りながら遊技を行う者も居り、何らかの弾みで当該紙幣案内板の上にこぼしてしまうことが起こりうる。また、遊技結果が自分の思い通りにならないことに苛立ち、手にしていた飲料を遊技機にかけてしまうといった不届きな者も存在する。

【0 0 0 7】

このような場合に、当該紙幣案内板は上方に面する部分の面積が比較的大きいので、他の部分と比較して、こぼされた飲料などの異物を受けやすい構造となっている。更に、当該紙幣案内板は紙幣挿入口に接して設けられているので、上述の異物は、当該紙幣挿入口へ混入してしまうおそれが生じるのである。

【0 0 0 8】

当該紙幣挿入口へ異物の混入は、遊技機の故障へと結びつくので、そのような事態を事前に防止する必要があった。

【 0 0 0 9 】

このような問題点に対して、紙幣案内板に、排水口を設けた遊技機が考えられたが、その遊技機は当該排水口が小さいために、目詰まりを起こしやすく、また、回収した液体は筐体の下方の空いたスペースにたれ流ししているに過ぎなかった。そのため、多量の水分がこぼされた場合には、排水性が充分でなく、結果的に筐体内部が汚染されてしまっていた。

【 0 0 1 0 】

本発明は、以上の問題点に鑑みてなされたものであり、その目的は、紙幣案内板上に異物がこぼれた場合であっても、当該異物が筐体内の各種装置にかかることなく回収することが可能な遊技機を提供することにある。

【 0 0 1 1 】**【課題を解決するための手段】**

本発明は、紙幣案内板に複数の略直線状の開口溝を有し、当該紙幣案内板上にこぼれた液体等の異物を、当該開口溝を介して回収することの可能な遊技機を提供する。

【 0 0 1 2 】

より具体的には、本発明は、以下のようなものを提供する。

【 0 0 1 3 】

(1) 筐体と、前記筐体の前面開口部に設けられた扉体と、前記扉体に設けられた紙幣挿入口と、前記紙幣挿入口の下辺部より筐体前面方向に向けて突出した、紙幣を前記紙幣挿入口に案内するための紙幣案内板と、を備える遊技機であって、前記紙幣案内板は、所定の大きさの異物を分離落下させる複数の異物落下口が形成されていることを特徴とする遊技機。

【 0 0 1 4 】

上述した(1)の発明によれば、筐体と、前記筐体の前面開口部に設けられた扉体と、前記扉体に設けられた紙幣挿入口と、前記紙幣挿入口の下辺部より筐体前面方向に向けて突出した、紙幣を前記紙幣挿入口に案内するための紙幣案内板と、を備える遊技機において、「所定の大きさの異物を分離落下させる複数の異物落下口が形成されている」ように構成することにより、紙幣案内板上に飲料等

の異物がこぼれた場合であっても、紙幣挿入口を通じて異物が筐体内部の各種装置にかかることなく回収することが可能となり、当該各種装置の破損を防止することが可能となる。

【 0 0 1 5 】

従来の遊技機においては、紙幣案内板の上に液体等の異物がこぼれてしまった場合には、そこから紙幣挿入口へと流れ込み、それが原因で内部の各種装置が故障してしまうといった問題があった。

【 0 0 1 6 】

そこで、本発明のように紙幣案内板に複数の略直線状の開口溝を設けることにより、当該異物を紙幣挿入口へ流入させることなく回収することが可能となるのである。

【 0 0 1 7 】

また、ただ排水口を設けた場合と比較して開口部の面積が広く取られているので、多量の水分であっても、一度に排水することが可能となり、多少のごみであれば目詰まりを起こしにくくすることが可能となるのである。

【 0 0 1 8 】

また、タバコの灰のような異物が当該紙幣案内板の上にこぼれた場合であっても、拭き取るよりも洗い流すことにより簡単に清掃することが可能となる。

【 0 0 1 9 】

更に、単なる排水口を設けた場合と比較して、デザイン性に優れるので、筐体全体のデザインを損なわずに設計することが可能となるのである。

【 0 0 2 0 】

(2) 前記紙幣案内板は、複数の略直線状の開口溝が列状に形成されていることを特徴とする (1) 記載の遊技機。

【 0 0 2 1 】

上述した (2) の発明によれば、(1) 記載の遊技機において「前記紙幣案内板は、複数の略直線状の開口溝が列状に形成されている」ように構成することにより、紙幣案内板上に飲料等の異物がこぼれた場合であっても、紙幣挿入口を通じて異物が筐体内部の各種装置にかかることなく回収することが可能となり、当

該各種装置の破損を防止することが可能となる。

【0022】

従来の遊技機においては、紙幣案内板の上に液体等の異物がこぼれてしまった場合には、そこから紙幣挿入口へと流れ込み、それが原因で内部の各種装置が故障してしまうといった問題があった。

【0023】

そこで、本発明のように紙幣案内板に複数の略直線状の開口溝を設けることにより、当該異物を紙幣挿入口へ流入させることなく回収することが可能となるのである。

【0024】

また、ただ排水口を設けた場合と比較して開口部の面積が広く取られているので、多量の水分であっても、一度に排水することが可能となり、多少のごみであれば目詰まりを起こしにくくすることが可能となるのである。

【0025】

また、タバコの灰のような異物が当該紙幣案内板の上にこぼれた場合であっても、拭き取るよりも洗い流すことにより簡単に清掃することが可能となる。

【0026】

更に、単なる排水口を設けた場合と比較して、デザイン性に優れるので、筐体全体のデザインを損なわずに設計することが可能となるのである。

【0027】

(3) 前記紙幣案内板には、該開口溝を複数の領域に仕切るための仕切部材が形成されていることを特徴とする(1)又は(2)記載の遊技機。

【0028】

上述した(3)の発明によれば、(1)又は(2)の遊技機において「前記紙幣案内板には、該開口溝を複数の領域に仕切るための仕切部材が形成されている」ように構成することにより、比較的大きな異物を開口溝に落としてしまうことを防ぐことが可能となり、該異物により内部の目詰まり、例えば、内部に設けられた異物誘導部などの目埋まり、を防止することが可能となる。

【0029】

(4) 前記仕切部材により仕切られた前記開口溝の各開口部の長さは、それぞれ該遊技機で使用されるコインの直径よりも小であることを特徴とする (3) 記載の遊技機。

【0030】

上述した (4) の発明によれば、(3) の遊技機において「前記仕切部材により仕切られた前記開口溝の各開口部の長さは、それぞれ該遊技機で使用されるコインの直径よりも小である」ように構成することにより、遊技機に使用するためのコインを誤って紙幣誘導板上に落としてしまったような場合であっても、当該開口溝に落下してしまうことを防止することが可能となる。

【0031】

(5) 前記紙幣挿入口に着脱自在に取着されるとともに、前記開口溝を介して入った外部からの異物を導くために、前記紙幣挿入口に対向する第1の開口部と、下方に向けて開放された第2の開口部とを有する取着体を備え、前記紙幣案内板は、前記第1の開口部を覆うように形成されていることを特徴とする (1) から (4) いずれか記載の遊技機。

【0032】

上述した (5) の発明によれば、(1) から (4) いずれかの遊技機において「前記紙幣挿入口に着脱自在に取着されるとともに、前記開口溝を介して入った外部からの異物を導くために、前記紙幣挿入口に対向する第1の開口部と、下方に向けて開放された第2の開口部とを有する取着体を備え、前記紙幣案内板は、前記第1の開口部を覆うように形成されている」ように構成することにより、外部からの異物と接触する部分である取着体を筐体から容易に取り外しすることが可能となるので、洗浄や破損時の取り外しや交換などを容易とすることが可能となる。

【0033】

(6) 前記紙幣案内板は、前記取着体に、別体として取り付けられていることを特徴とする (5) 記載の遊技機。

【0034】

上述した (6) の発明によれば、(5) の遊技機において「前記紙幣案内板は

、前記取着体に、別体として取り付けられている」ように構成することにより、破損、汚損などによる交換の必要が生じた際であっても、紙幣案内板と取着体との両方を一度に交換する必要がなく、一方のみの交換で済ますことが可能となるので、部品交換にかかるコストを抑えることが可能となる。

【 0 0 3 5 】

【発明の実施の形態】

以下に、本発明の実施の形態について図面に基づいて説明する。尚、本実施の形態は、本発明をスロットマシンに適用して説明するが、本発明はこれに限らず、ビデオ遊技機、メダル遊技機、カード遊技機等、各種の遊技機に採用することができる。

【 0 0 3 6 】

次に、スロットマシンの構成を説明する。

【 0 0 3 7 】

図 1 はスロットマシン 1 の正面図である。スロットマシン 1 は、キャビネット 2 の開口部に扉体 3 が開閉自在に設けられている。また、キャビネットの上部にトップフレーム 4 が取り付けられている。トップフレーム 4 の正面には化粧パネル板 4 1 が施されている。

【 0 0 3 8 】

遊技情報を表示する表示装置 2 1 はキャビネット内に設置される。表示装置 2 1 の表示を視認可能とするために、扉体 3 の上部には窓が形成され、表示装置 2 1 の表示を視認可能とするため、あるいは表示装置 2 1 を保護するための透明板が前記窓に取り付けられている。そして、前記窓の両翼には、遊技状態に応じて発生される効果音あるいは効果音楽を聴覚容易とするための透過孔が形成されている。

【 0 0 3 9 】

扉体 3 の正面中央部には突出する形で操作部 5 が配置されている。操作部 5 の右側の傾斜面には、各種操作ボタンが配列されると共にコインを投入するコイン投入口 5 1 が備えられている。操作部 5 の右側には、キャビネット 2 内に収納される紙幣識別機（ビルバリデータ）に紙幣を案内するための紙幣案内部 5 2 が備

えられている。

【 0 0 4 0 】

操作部 5 の下部には、扉体 3 と開閉自在に連結する枠体 6 が設けられている。枠体 6 には化粧パネル板 6 1 が内包されている。枠体 6 の下部であって、扉体 3 の底部にはコインを収容するコイン受け皿 3 0 が形成されている。

【 0 0 4 1 】

図 2 は操作部 5 の部分拡大図である。前述の紙幣案内部 5 2 は紙幣案内板 5 2 A と取着体 5 2 B で構成される。紙幣案内板 5 2 A と取着体 5 2 B は一体となつて、操作部 5 に取り付けられている。

【 0 0 4 2 】

図 3 は扉体 3 を開いた状態図である。図 3 に示されるように、キャビネット内には紙幣識別機 2 2 と紙幣収容部 2 3 が設置されている。紙幣識別機 2 2 は、紙幣案内部 5 2 から投入された紙幣の真偽あるいは良否を判定する。紙幣収容部（スタッカ）2 3 は、紙幣識別機 2 2 で有効とされた紙幣を収容する。紙幣案内部 5 2 の紙幣挿入口で案内された紙幣は、紙幣識別機 2 2 の紙幣取入口に取り入れられる。

【 0 0 4 3 】

図 4 は紙幣案内板 5 2 A の斜視図である。図 4 に示されるように、紙幣案内板 5 2 A は複数の略直線状の溝 5 2 1 が列状に形成されている。紙幣案内板 5 2 A には、紙幣案内面 5 2 2 に対して上面が僅かに沈んだ形で、溝 5 2 1 を複数の領域に仕切るための仕切部材 5 2 3 が形成されている。そして、図 4 に示されるように、仕切部材 5 2 3 により仕切られた溝 5 2 1 の各開口溝 5 2 4 の長さは、遊技機で使用されるコイン 1 0 の直径よりも小さく形成されている。

【 0 0 4 4 】

図 5 は、紙幣案内板 5 2 A と取着体 5 2 B が組み合わされた状態での縦断面図である。図 5 に示されるように、紙幣案内板 5 2 A は、紙幣挿入空間となる紙幣挿入口 5 2 0 に着脱自在に取着される。また、紙幣が容易に取り入れられる様にするため、紙幣案内板 5 2 A は、紙幣挿入口 5 2 0 の下辺部よりキャビネット 2 の前面方向に向けて突出している。

【 0 0 4 5 】

紙幣挿入口 5 2 0 を形成する周壁は下方に連続し、紙幣挿入口 5 2 0 と対向する第 1 の開口空間となる第 1 の開口部 5 2 5 を形成する。第 1 の開口部 5 2 5 を形成する周壁は更に下方に連続し、下方に向けて開放された第 2 の開口部 5 2 6 を形成する。紙幣挿入口 5 2 0 と開口部 5 2 5 と第 2 の開口部 5 2 6 は、下側が頂点となる概ね四角錐体の空間を形成する。そして、紙幣案内板 5 2 A は、第 1 の開口部 5 2 5 を覆うように形成されている。なお、第 1 の開口部 5 2 5 と第 2 の開口部 5 2 6 は、開口溝 5 2 4 を介して外部から入った異物（例えば、水分）を導くためのものである。

【 0 0 4 6 】

図 6 は、紙幣案内板 5 2 の斜視分解組立図である。図 6 において、紙幣案内板 5 2 A の後壁には突起 5 2 8 A が形成されている。紙幣案内板 5 2 A の前方下壁には円柱状突起 5 2 8 B が形成されている。円柱状突起 5 2 8 B に雌ねじが形成されている。一方、取着体 5 2 B の第 1 の開口部 5 2 5 の後方内壁には係止溝 5 2 8 C が形成されている。紙幣案内板 5 2 A の突起 5 2 8 A を取着体 5 2 B の係止溝 5 2 8 C に挿入し、紙幣案内板 5 2 A を第 1 の方向に回転すれば、紙幣案内板 5 2 A は取着体 5 2 B に組み立てられる。取着体 5 2 B の係止溝 5 2 8 C に突起 5 2 8 A を挿入した状態で、第 1 の方向と反対の第 2 の方向に回転すれば、紙幣案内板 5 2 A を取着体 5 2 B から分離可能になる。

【 0 0 4 7 】

紙幣案内板 5 2 A の円柱状突起 5 2 8 B と取着体 5 2 B を固定ねじ B F で固定し、紙幣案内板 5 2 A と取着体 5 2 B を一体にする。そして、一体になった紙幣案内板 5 2 A と取着体 5 2 B を、操作部 5 のコントロールパネル 5 0 の切り欠き部に挿入する。次に、コントロールパネル 5 0 に設けられた取り付けブラケット 5 0 1 に、一体になった紙幣案内板 5 2 A と取着体 5 2 B を固定ねじ B F で固定し、組立完了状態となる。

【 0 0 4 8 】

より具体的には、図 5 に示されるように、取着体 5 2 B の前部に形成された溝 5 2 7 をコントロールパネル 5 0 の縁に挿入し、取着体 5 2 B をコントロールパ

ネル 5 0 側に倒す。取着体 5 2 B の鏝がコントロールパネル 5 0 の上面に当接し、固定ねじ B F で固定すれば、組立完了状態となる。

【 0 0 4 9 】

次に、作用を説明する。図 4 において説明されたように、紙幣案内板 5 2 A は複数の略直線状の溝 5 2 1 が列状に形成されている。したがって、紙幣案内板上に飲料等の異物がこぼれた場合であっても、紙幣挿入口 5 2 0 を通じて異物が筐体内部の各種装置にかかることなく回収することが可能となり、当該各種装置の破損を防止することが可能となる。また、タバコの灰のような異物が当該紙幣案内板の上にこぼれた場合であっても、拭き取るよりも洗い流すことにより簡単に清掃することが可能となる。更に、単なる排水口を設けた場合と比較して、デザイン性に優れる。

【 0 0 5 0 】

更に、図 4 において説明されたように、溝 5 2 1 を複数の領域に仕切るための仕切部材 5 2 3 が形成されている。したがって、比較的大きな異物を開口溝に落としてしまうことを防ぐことが可能となり、該異物により内部の目詰まり、例えば、内部に設けられた異物誘導部（図 5 に示された第 2 の開口部 5 2 6）などの目詰まりを防止することが可能となる。

【 0 0 5 1 】

また、前述の異物の対象としてはコイン 1 0 の可能性が大きい。しかしながら、図 4 において説明されたように、仕切部材 5 2 3 により仕切られた溝 5 2 1 の各開口溝 5 2 4 の長さは、スロットマシン 1 で使用されるコイン 1 0 の直径よりも小さく形成されている。したがって、スロットマシン 1 に使用するためのコイン 1 0 を誤って紙幣案内板 5 2 A 上に落としてしまったような場合であっても、開口溝 5 2 4 に落下してしまうことを防止することが可能となる。実施例では、開口溝 5 2 4 の最大長さは 1 8 ミリメートルである。開口溝 5 2 4 の幅は 3 . 5 ミリメートルである。コイン 1 0 の直径は 2 5 ミリメートル、幅は 1 ミリメートル程度であり、コイン 1 0 が内部に落ちることはない。

【 0 0 5 2 】

次に、図 5 と図 6 の作用について説明する。「紙幣挿入口 5 2 0 に着脱自在に

取着されるとともに、開口溝 524 を介して入った外部からの異物を導くために、紙幣挿入口 520 に対向する第 1 の開口部 525 と、下方に向けて開放された第 2 の開口部 526 とを有する取着体 52B を備え、紙幣案内板 52A は、第 1 の開口部 525 を覆うように形成されている」ことを図 5 と図 6 において説明した。前記のように構成することにより、外部からの異物と接触する部分である取着体を筐体から容易に取り外しすることが可能となるので、洗浄や破損時の取り外しや交換などを容易とすることが可能となる。

【0053】

また、図 6 では、「紙幣案内板 52A の突起 528A を取着体 52B の係止溝 528C に挿入し、紙幣案内板 52A を第 1 の方向に回転すれば、紙幣案内板 52A は取着体 52B に組み立てられる。取着体 52B の係止溝 528C に突起 528A を挿入した状態で、第 1 の方向と反対の第 2 の方向に回転すれば、紙幣案内板 52A を取着体 52B から分離可能になる」ことを説明した。このことは、とりもなおさず、紙幣案内板 52A は取着体 52B に別体として取り付けられていることを意味している。紙幣案内板別体として分離可能とすることにより、洗浄や破損時の取り外しや交換などを容易とすることが可能となる。

【0054】

また、図 6 においては、紙幣案内板 52A と取着体 52B を固定ねじ BF1 本で固定できること、一体となった紙幣案内板 52A と取着体 52B をコントロールパネル 50 に固定ねじ BF1 本で固定できることが実施の形態の優位性として掲げられる。

【0055】

【発明の効果】

本発明によれば、紙幣を前記紙幣挿入口に案内するための紙幣案内板を備えた遊技機において「所定の大きさの異物を分離落下させる複数の異物落下口が形成されている」ように構成することにより、紙幣案内板上に飲料等の異物がこぼれた場合であっても、紙幣挿入口を通じて異物が筐体内部の各種装置にかかることなく回収することが可能となり、当該各種装置の破損を防止することが可能となる。

【0056】

また、本発明によれば、前述の遊技機において、「前記紙幣案内板には、該開口溝を複数の領域に仕切るための仕切部材が形成されている」ように構成することにより、比較的大きな異物を開口溝に落としてしまうことを防ぐことが可能となり、該異物により内部の目詰まり、例えば、内部に設けられた異物誘導部などの目詰まり、を防止することが可能となる。

【0057】

更に、本発明によれば、前述の遊技機において、「前記仕切部材により仕切られた前記開口溝の各開口部の長さは、それぞれ該遊技機で使用されるコインの直径よりも小である」ように構成することにより、遊技機に使用するためのコインを誤って紙幣誘導板上に落としてしまったような場合であっても、当該開口溝に落下してしまふことを防止することが可能となる。

【0058】

また、本発明によれば、前述のいずれかの遊技機において、「前記紙幣挿入口に着脱自在に装着されるとともに、前記開口溝を介して入った外部からの異物を導くために、前記紙幣挿入口に対向する第1の開口部と、下方に向けて開放された第2の開口部とを有する取着体を備え、前記紙幣案内板は、前記第1の開口部を覆うように形成されている」ように構成することにより、外部からの異物と接触する部分である取着体を筐体から容易に取り外しすることが可能となるので、洗浄や破損時の取り外しや交換などを容易とすることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明におけるスロットマシンの正面図である。

【図2】 本発明における操作部の部分拡大図である。

【図3】 本発明における扉体を開いた状態図である。

【図4】 本発明における紙幣案内板の斜視図である。

【図5】 本発明における紙幣案内板52Aと取着体52Bが組み合わされた状態での縦断面図である

【図6】 本発明における紙幣案内板の斜視分解組立図である。

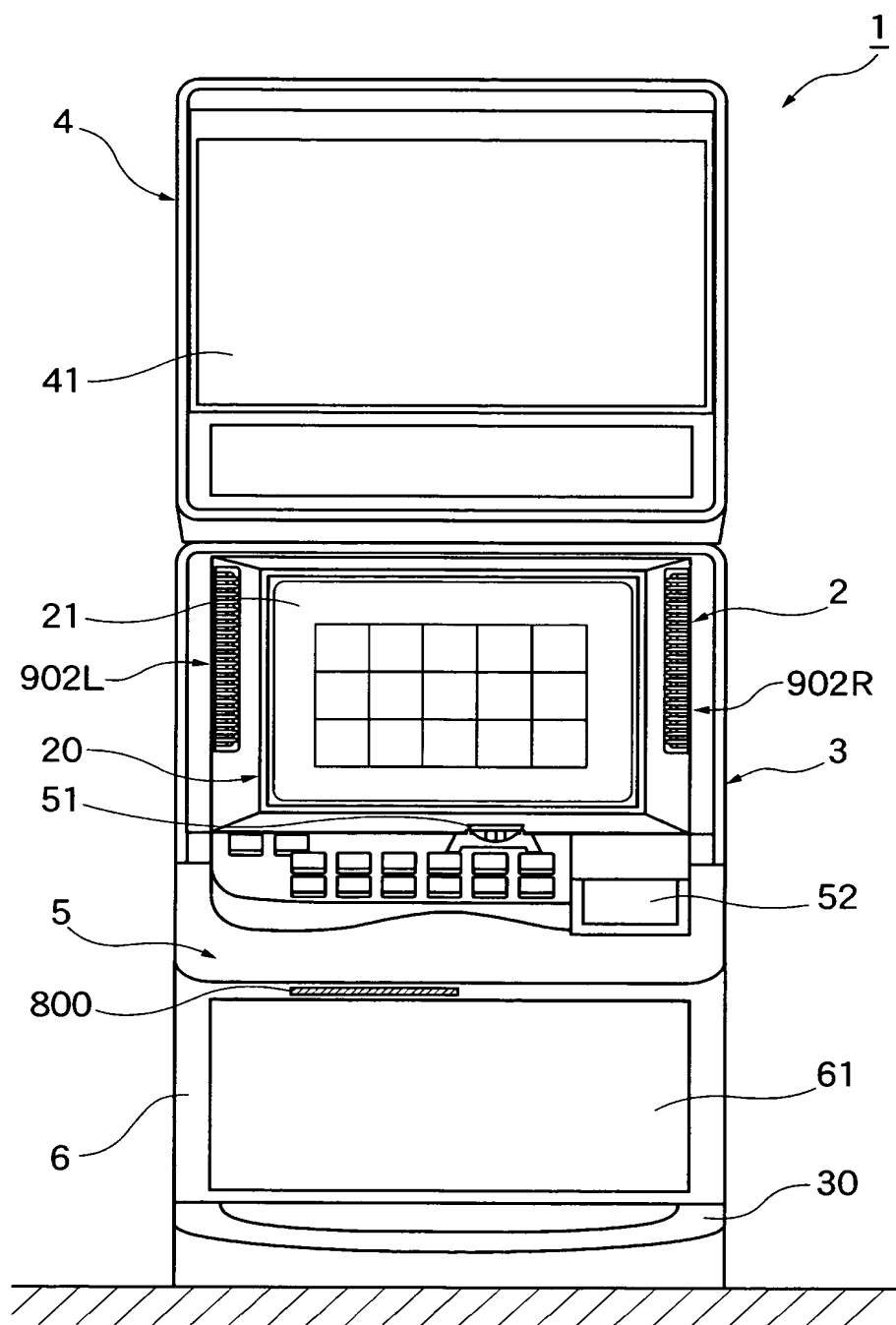
【符号の説明】

- 1 スロットマシン
- 2 キャビネット
- 3 扉体
- 3 A 折曲端
- 4 トップフレーム
- 5 操作部
- 6 枠体
- 1 0 コイン
- 2 1 表示装置
- 2 2 紙幣識別機
- 2 3 紙幣収容部
- 3 0 コイン受け皿
- 4 1 化粧パネル板
- 5 0 コントロールパネル
- 5 1 コイン投入口
- 5 2 紙幣案内部
- 5 2 A 紙幣案内板
- 5 2 B 取着体
- 5 2 0 紙幣挿入口
- 5 2 1 溝
- 5 2 2 紙幣案内面
- 5 2 3 仕切部材
- 5 2 4 開口溝
- 5 2 5 第 1 の開口部
- 5 2 6 第 2 の開口部

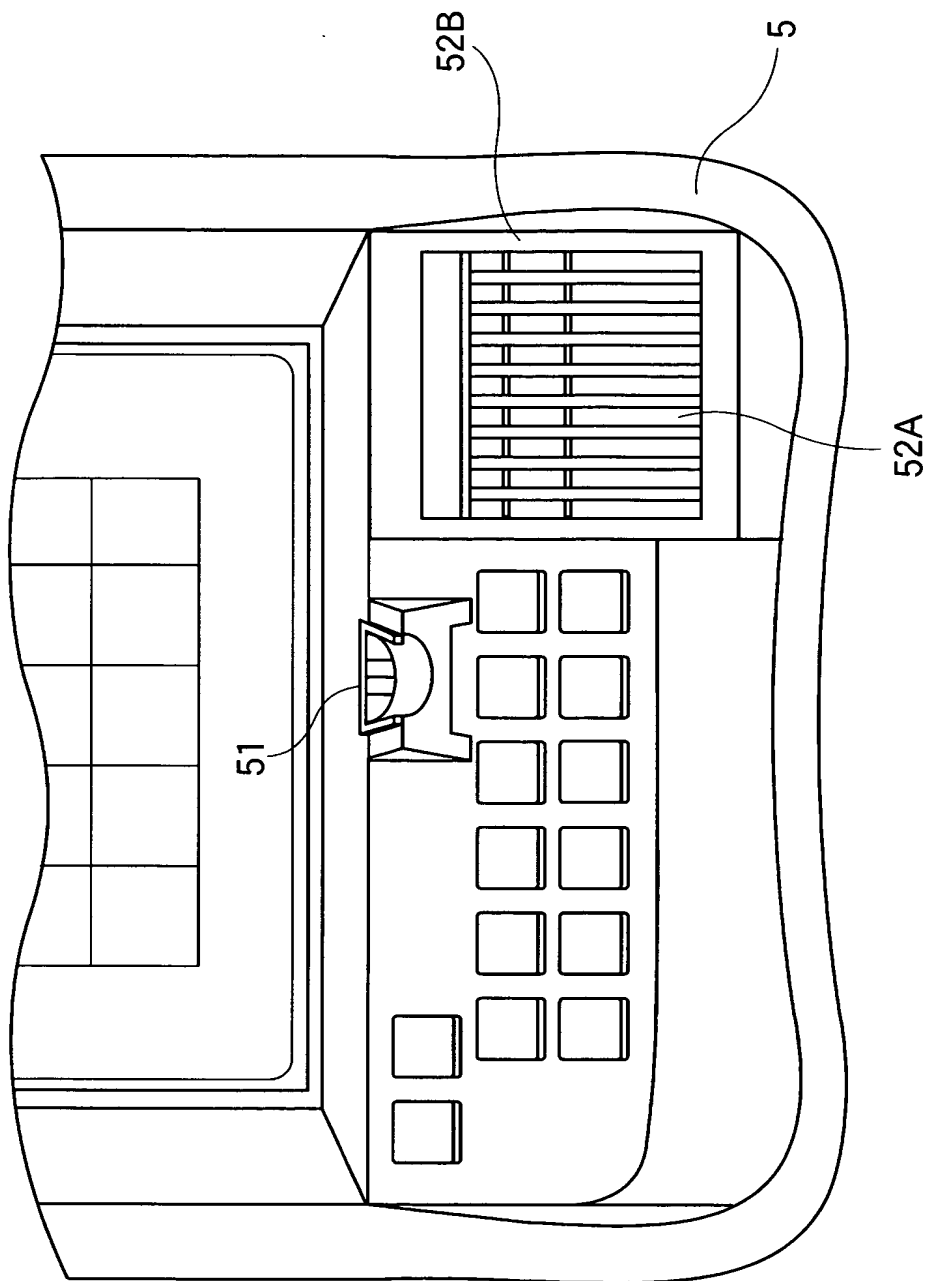
【書類名】

図面

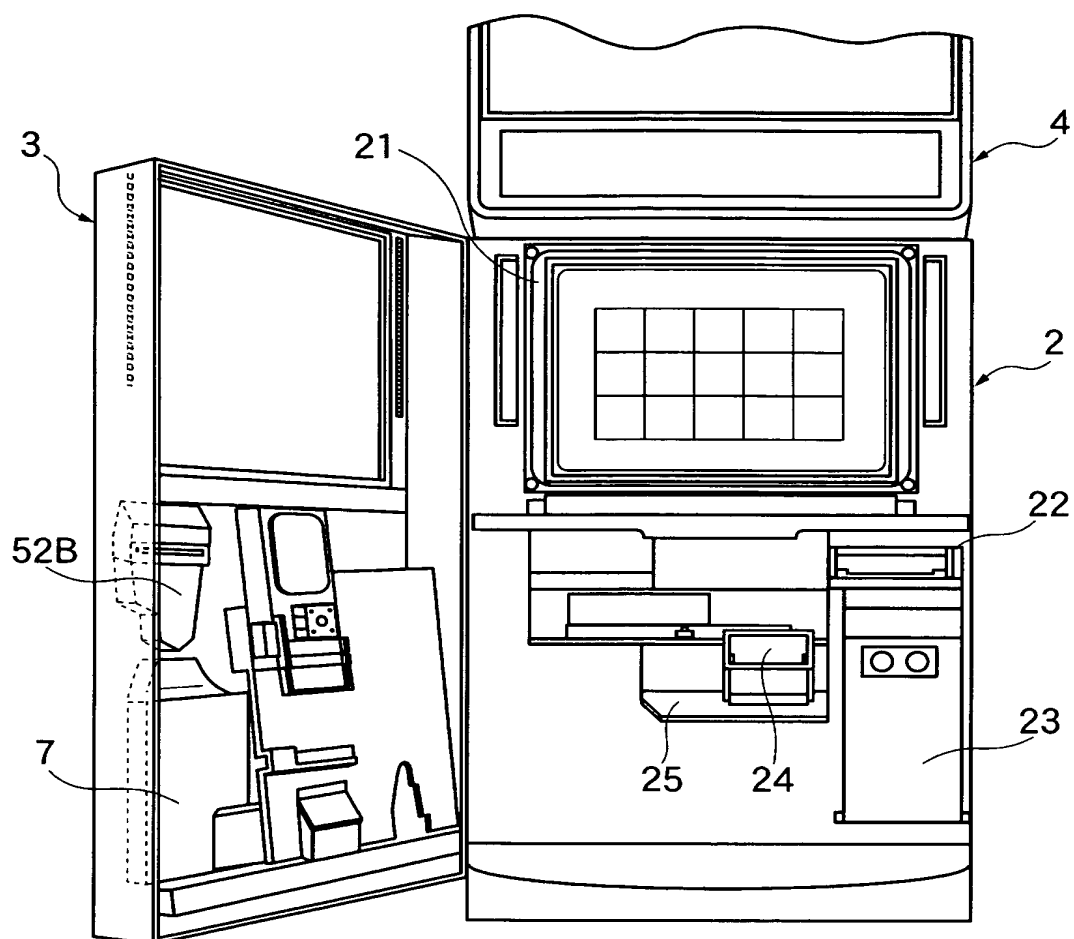
【図 1】



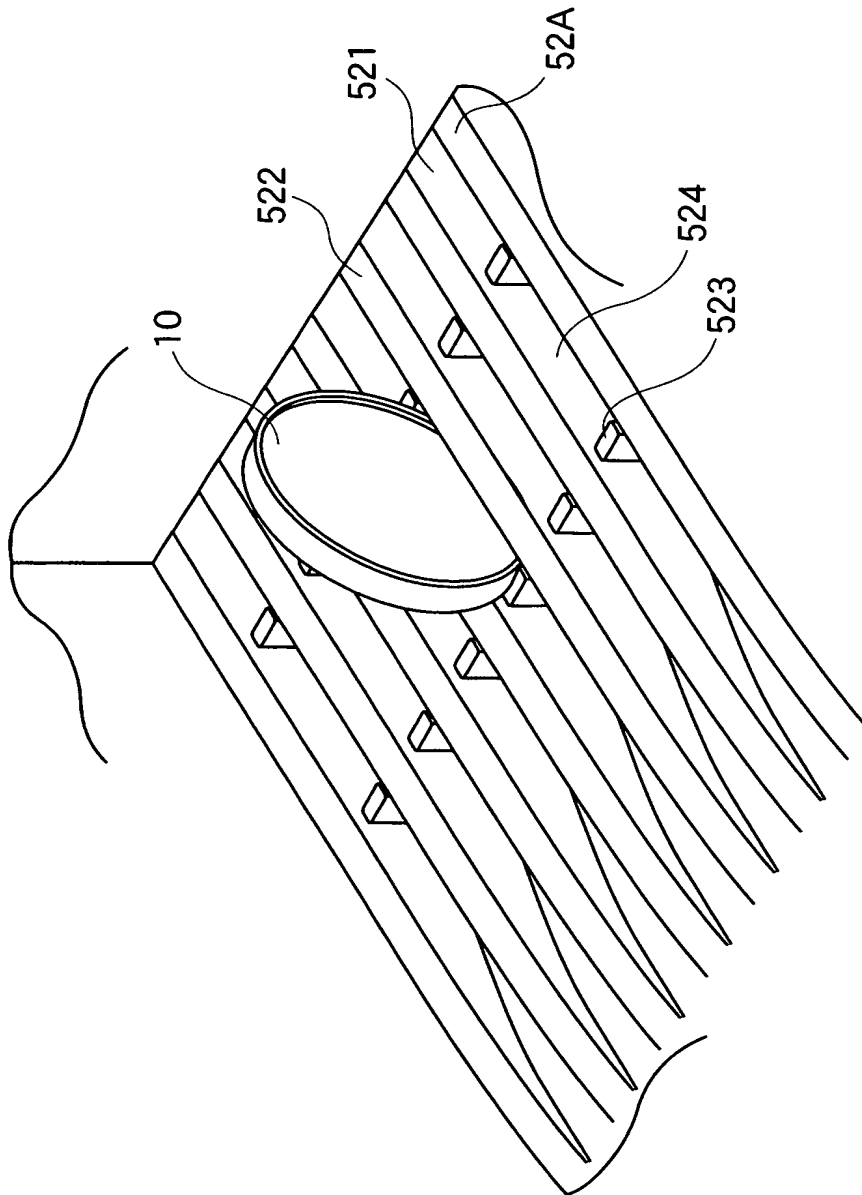
【図 2】



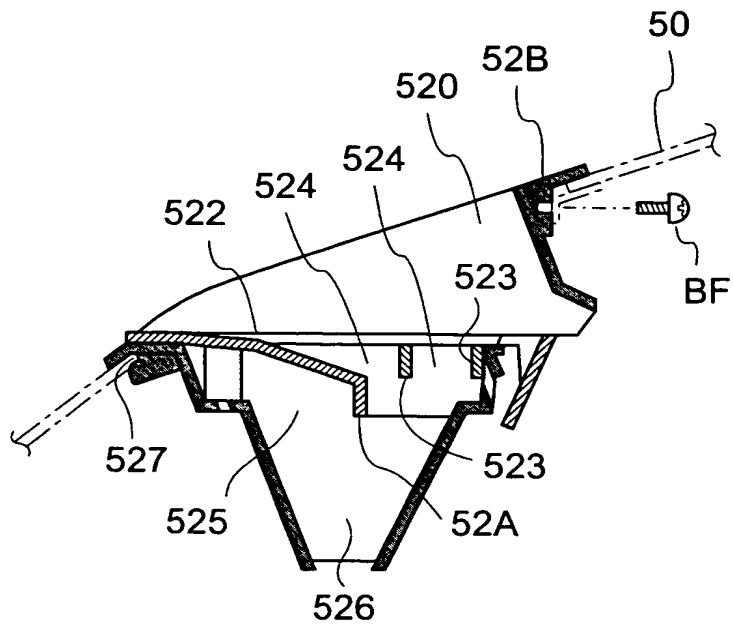
【図 3】



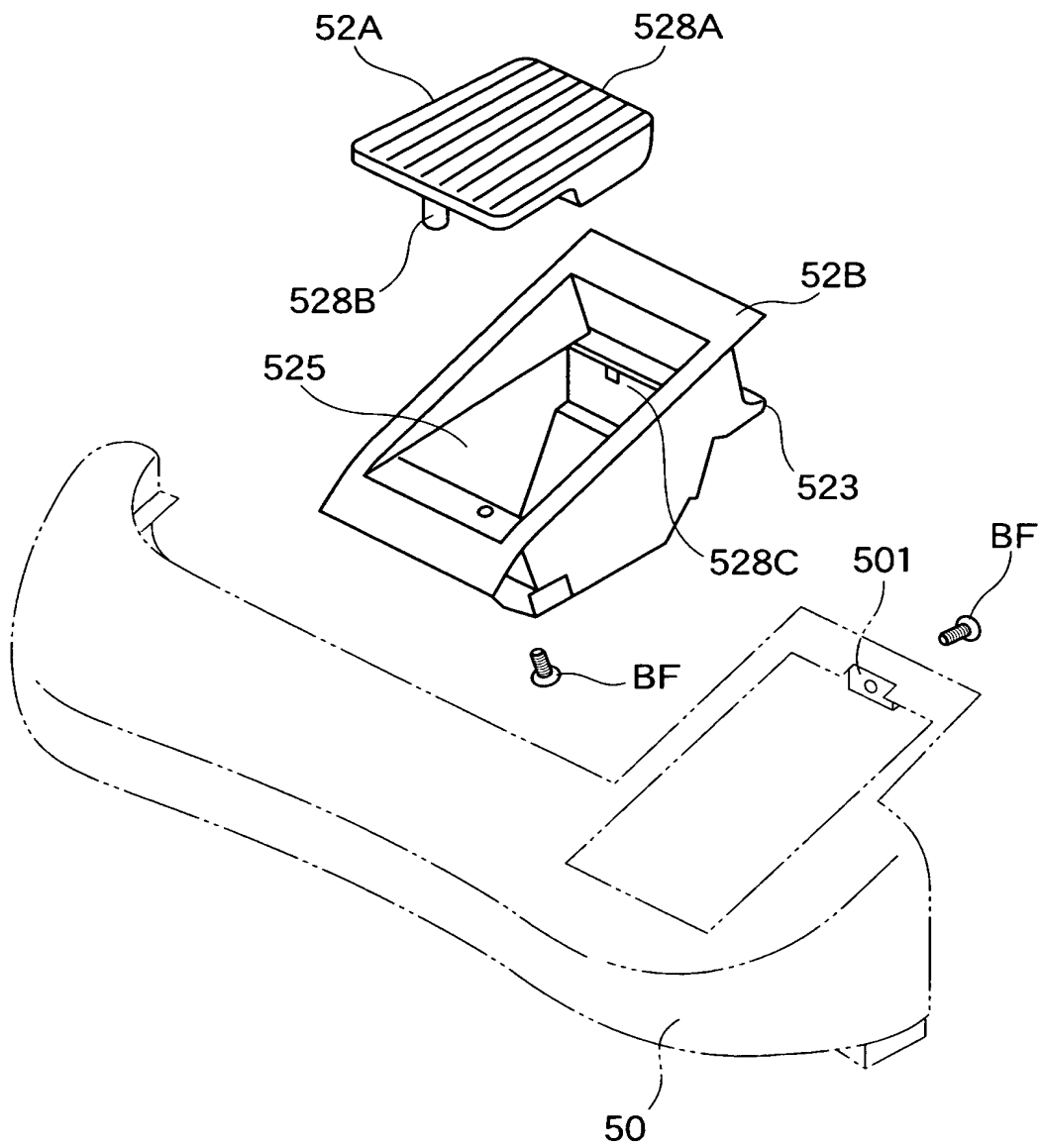
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 紙幣案内板上に異物がこぼれた場合であっても、当該異物が筐体内の各種装置にかかることなく回収することが可能な遊技機を提供する。

【解決手段】 筐体と、前記筐体の前面開口部に設けられた扉体 3 と、扉体 3 に設けられた紙幣挿入口 5 2 0 と、紙幣挿入口 5 2 0 の下辺部より筐体前面方向に向けて突出し、紙幣を紙幣挿入口 5 2 0 に案内するための紙幣案内板 5 2 A と、を遊技機は備える。紙幣案内板 5 2 A は、複数の略直線状の開口溝 5 2 4 が列状に形成されている。紙幣案内板 5 2 A 上に飲料等の異物がこぼれた場合であっても、紙幣挿入口 5 2 0 を通じて異物が筐体内部の各種装置にかかることなく回収することが可能となり、当該各種装置の破損を防止することが可能となる。

【選択図】 図 5

特願 2 0 0 2 - 3 1 6 7 2 9

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[5 9 8 0 9 8 5 2 6]

1 . 変更年月日

1 9 9 8 年 7 月 2 3 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都江東区有明 3 丁目 1 番地 2 5

氏 名

アルゼ株式会社